



脱腸のお話 ~ 鼠径ヘルニアの診断と治療 ~

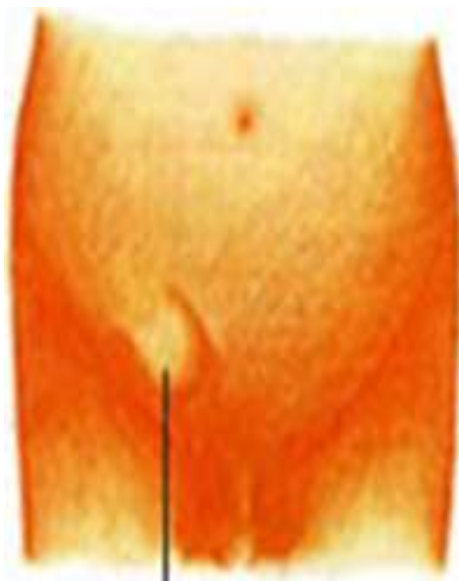
外科部長 春日井貴雄

鼠径ヘルニアの診断と治療

「ヘルニア」とは

体内の臓器や構造が、あるべき部位から逸脱した状態を示します。脱腸に限って言うと、腸などがおなかの中からそけい部の皮膚の下へ飛び出してくることを言います。

鼠径ヘルニアの症状

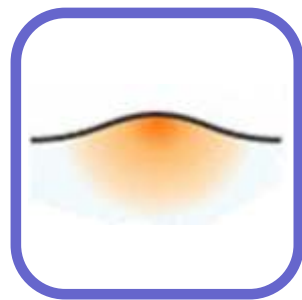


鼠径ヘルニア

初期のころは、立った時とかお腹に力を入れた時に鼠径部の皮膚の下に腹膜や腸の一部などが出てきて柔らかいはれができますが、普通は指で押さえると引っ込みます。太ももの付け根(そけい部)に何か出てくる感じがおり、それがお腹の中から腸が脱出してくるので「脱腸」と呼ばれています。次第に小腸などの臓器が出てくるので不快感や痛みを伴ってきます。はれが急に硬くなったり、押さえても引っ込まなくなることがあり、お腹が痛くなったり吐いたりします。これをヘルニアのカントンといい、急いで手術をしなければ、命にかかわることになります。



不快感や痛みを感じる



立った時やお腹に力を入れたとき、そけい部に柔らかい腫れを感じ



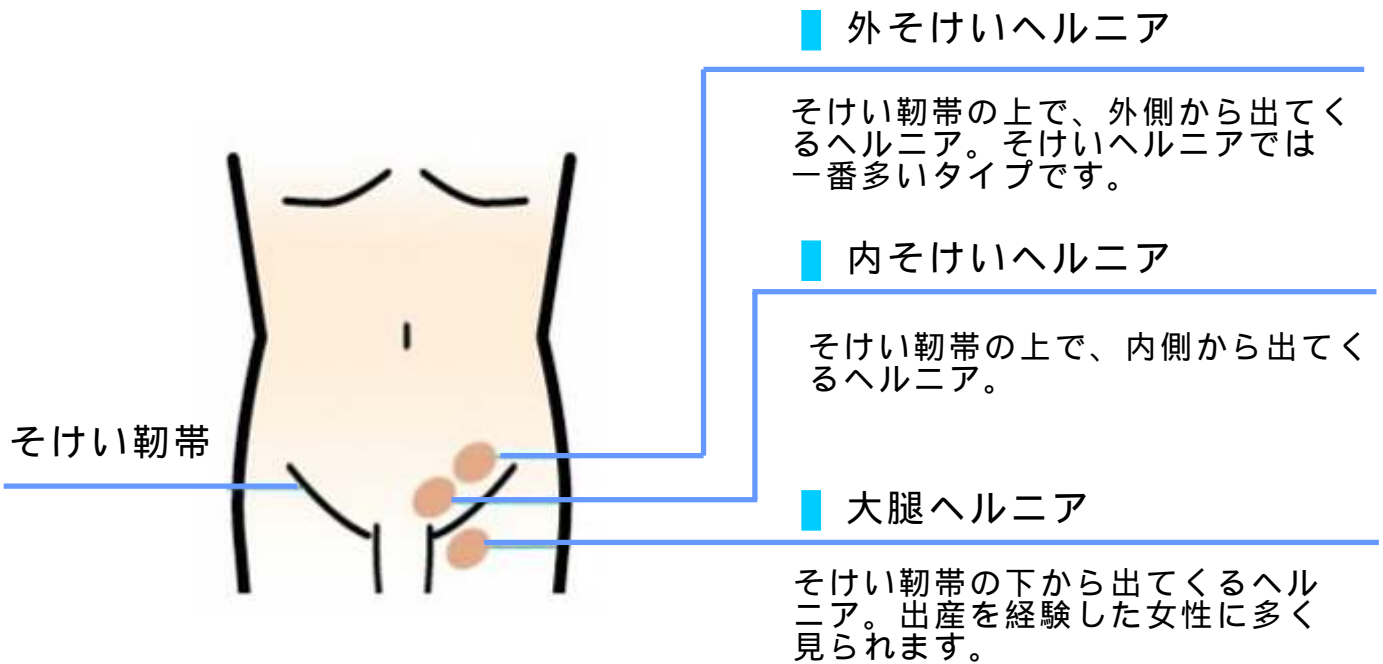
指で押さえると通常は引っ込む。



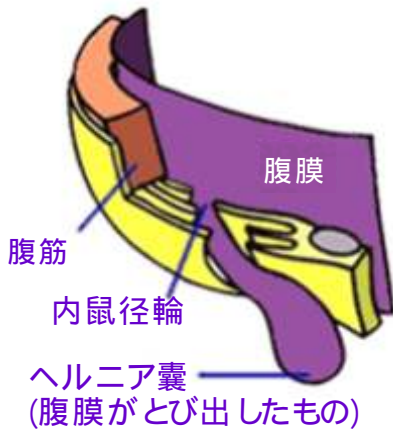
腫れが急にかたくなり、指で押さえても引っ込まなくなる(カントン)。この場合は緊急手術が必要です。

そけいヘルニアの種類

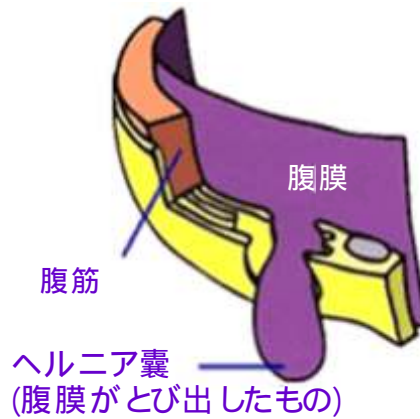
鼠径ヘルニアには3種類あります。



外鼠径 (間接) ヘルニア



内鼠径 (直接) ヘルニア



そけい部（鼠径部）にはお腹と外をつなぐ筒状の管（そけい管）があり、男性では睾丸へ行く血管や精管（精子を運ぶ管）が、女性では子宮を支える靭帯が通っています。年をとってきて筋膜が衰えてくると鼠径管の入り口が緩んできます。お腹に力を入れた時などに筋膜が緩んで出来た入り口の隙間から腹膜が出てくるようになり、次第に袋状＜ヘルニア嚢（のう）といいますが＞に伸びてそけい管内を通り脱出します。いったんできた袋はなくならず、お腹に力を入れるとヘルニアのうの中に腸など、お腹の中の組織が出てくるようになります。これを外そけいヘルニアといいますが、腹壁には弱い場所があり、年をとってきて筋肉が衰えてくるとここを直接、押し上げるようにして腹膜がそこから袋状に伸びて途中からそけい管内に脱出します。これを内そけいヘルニアといいますが、外観は外そけいヘルニアと変わりません。そけい部の下、大腿部（だいたい部）の筋肉、筋膜が弱くなって膨らみが発生するヘルニアを大腿ヘルニア（だいたいヘルニア）といいますが、大腿ヘルニアは頻度は少ないですがカントンしやすいといわれています。

手術の種類

人工補強材を使用しない方法 (従来法)。

ご自身の組織を縫い合わせて補強する方法です。

術後のツッパリ感や痛みが強いとされています。

人工補強材を使用する方法。

人工素材は日々改良進化しており充分検討し最良のものを使用していきます。

メッシュプラグ法 ----- 当院では現在、主に3DパッチやPHSを使用します。

クーゲル法 ----- 再発症例では特に有効と考えています。

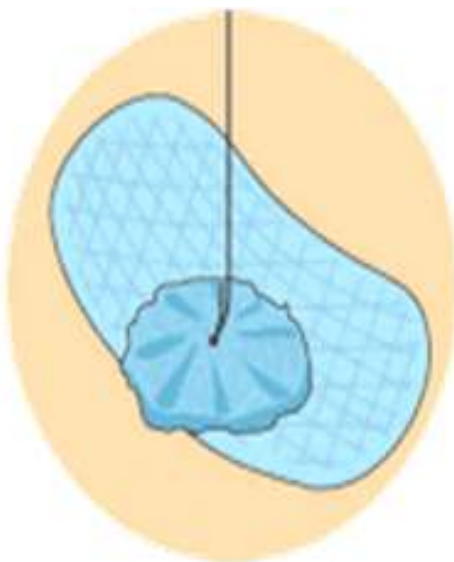
腹腔鏡下ヘルニア修復術 ----- 全身麻酔が必須であること。
通常のヘルニアでは他の手技で十分対応可能であることから、現在当院では行っておりません。

日本において、そけいヘルニア (腸腸) の手術は長い間、バツシーニ法 * などの従来法が主流でしたが、現在は60%がこのメッシュ & プラグ法によるものです。

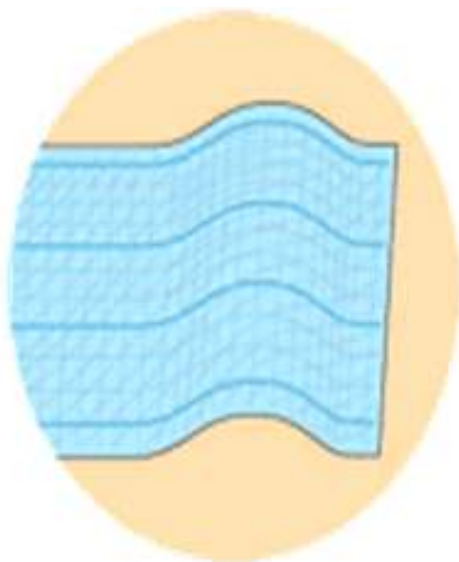
また、最近ではプラグ型のもの以外に、円形、楕円形、長方形など様々なシートタイプのメッシュが利用できるようになりました。

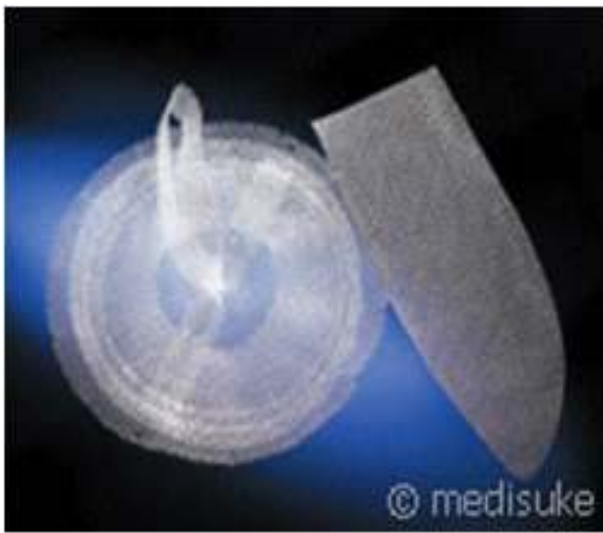


PHS法



3Dパッチ法





DK法 ダイレクト クーゲル法

手術時間は1時間程度です。当院では3日程度の入院で行っています。

手術後は？

入浴は3日目よりシャワー可能です。約7日後に診察し問題なければ湯船につかれます。

傷は基本的に抜糸のいらぬ縫い方ですが、1週間前後は腫れないか観察が必要です。

薬は抗生物質と痛み止めを3-4日分飲んでいただきます。

仕事はデスクワークなら術後3-4日後より可能です。しかし、重いものを持ったり、日常生活以上の強度の仕事は1ヶ月程度は避けたほうが無難です。

費用は？

当院では一般的な健康保険3割負担の方で。

手術投薬料で約6万円 1泊2日で約7万円程度かかります。

気になる症状のある方はぜひ外科に受診してください。